

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園 グループホーム ほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果確定日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

星寿園グループホーム”ほしのさと”は、周りが山に囲まれた自然豊かな中にあり、静かな環境で過ごす事が出来る。施設内は明るく広い共有スペースがあり、毎日ご利用者と職員が、各ユニットの理念に沿いながら、楽しく一緒に過ごしている。健康面では、近のかかりつけ医師と連絡を取りながら、健康管理行っており、看取り介護も実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所7年目となり、年2回の法人広報紙が全所帯に配布され、地域の方から相談があったり、文化連盟による日本舞踊や山村留学生による太鼓演奏の披露も継続し、毎月民生委員が来訪されている。運営推進会議は、祭りや初詣の沿道の段差の解消をお願いしたり、参加者から近隣居住の方々に緊急時の協力依頼のチラシ配布のアドバイスを受けるなど、地域の方々の理解や協力を得る場として定着している。毎月ケア会議が開催され、転倒を繰り返し自力歩行ができなくなった入居者の被害妄想や死にたいとの言葉をそのまま受け入れ、全職員で心地よい環境づくりに務めている。適切な排泄支援が入居者の心身状態の改善につながることを理解したトイレ誘導が実践され、今後も法人理念の入居者の人権尊重や本人本位のケアの実践で、さらに地域の老人福祉への寄与が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **星グループ/星寿園GHほしのさと**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えたユニットの理念と、毎月の目標を作り、共有、実践につなげる為に、事務所の壁に貼っている。	今年度も各ユニット毎に理念を掲示し、日々のケアを振り返りながら月間目標を掲示している。各ユニットの理念に沿ったケアや、個人の目標達成、事故やヒヤリハットの回避をホーム理念としている。	社会福祉法人の理念を具現化したサービスがホームで提供されるために、ホームや各ユニット理念の位置づけの検証を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、近くの保育園のお遊戯慰問や、お遊戯、鼓笛の見学招待があったり、又、民生委員、文化連盟、山村留学生の慰問があり、その都度ご利用者と、交流をして頂いている。	敬老会では職員も加入している文化連盟による日本舞踊が披露され、沖縄や埼玉等からの山村留学生による太鼓演奏の披露が明日予定されていた。民生委員の方が毎月来訪されるなど、地域との交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の理解をして頂く為に、状況報告やひやり・ハットを通して事例報告等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、行政、包括、区長、民生委員、ご家族に案内をして参加を求め、意見交換の場としている。	2ヶ月毎に適切なメンバーで会議を開催し、会議録を家族に送付している。祭りや初詣の沿道の段差解消を申し出たり、近隣居住の方々に緊急時の協力依頼のチラシ配布を地域代表者からアドバイスを受けてたり、家族からの意見で投薬担当者を明確にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、日頃の状況を把握して頂く様にしている。又、地域密着型サービス連携会議に出席している。	区長会を通じて、年2回法人広報紙が全所帯に配布されている。地域の方から相談を受け、地域包括支援センター窓口を紹介したり、市主催の地域密着型サービス会議や研修会に参加するなど、日頃から連携や情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず、薬での抑制も行っていない。身体拘束については、基本行わないが、緊急やむ負えない場合においては、転倒の危険性等を考慮し、事前にご家族の同意を頂いている。	転倒予防のために家族の了解を得てベット下にセンサーを設置しているが、センサーマットを自費で購入した家族もある。現在は無断外出などはない。ケア会議では日々のケアの反省として、言葉遣いに留意することが話し合われている。	職員の声かけや言葉遣い、対応が当該入居者だけではなく、他の入居者にも波及したり、ホーム全体の雰囲気を作るとの認識をさらに深められることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内勉強会や園外研修等に参加して、知識を得る機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されているご利用者はいないが、必要性があると思われた時は、行政と相談しながら、支援を行って行きたい。研修には参加している。	現在まで日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、随時情報が提供できるように玄関に関連書面を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの際、施設内を見学して頂き説明をしている。又、契約時は、契約書と重要事項説明書は読みながら行い、疑問点を尋ねたり、説明を行い同意書を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議の参加を呼び掛け、地域の方との意見交換を行い、運営に反映させている。	日頃から入居者の状況は随時連絡や報告をしているが、花火大会や敬老会は家族に参加をお願いしている。また、行事毎の入居者の笑顔満載のスナップが掲載されたホーム便りや運営推進会議録を定期的に送付し、家族からの意見を伺う機会としている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	園長が個々に意向や意見を聞く機会を設け、職員はそこで意見や提案を話している。	園長との個人面談は、就労の更新や希望等を伝える場となり、管理者、主任、副主任の面談で人事評価をしている。毎月全体会議後、各ユニット会議が開催され、率直な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集や採用に関して、差別的な事はない。資格取得についても、勤務等考慮してもらい、資格取得に努めている。	現在、男性4名を含む20～60歳代職員が就労しており、今春新卒の1名が入職予定である。状況に応じてユニット間の異動もある。職員休憩室で交代で昼休みを取り、希望に応じたシフトを組んでいる。職員の経験等に応じて、初任者や実務者研修の参加や介護福祉士などの資格取得を推奨している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	園内勉強会や外部の勉強会で学ぶ機会を設けている為、参加する様に声掛けを行っている。	法人主催の人権研修に参加している。日頃から入居者への声かけを振り返り、月間目標にも、言葉使い、接遇についてなど掲げて理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会や認知症サポーター要請講座等の研修の参加を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	部会の研修会や、地域密着サービス連携会議の研修会、又、地域の福祉関連事業所で勉強会を行い、意見交換を行う等取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に面接を行い、聞き取りを行い、プランにも反映させている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や契約時に聞き取りを行い、安心して頂ける様に努め、同意を得ている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りを行いプランに反映させている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや、たたみ、お盆やお茶碗拭き、野菜の皮むき等、一緒に行いながら関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室で談笑して頂き、その際日頃の様子や変化等を報告したり、月1度の一筆箋で面会や外出のお願いをしている。又、ご本人の希望で電話をして話して頂く事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けだった美容室への外出支援や、祭り見学等の支援を行っている。	入居前交流があった地域のグループが来訪したり、家族の送迎で自宅に帰ったり、職員の同行で馴染みの美容院や村祭り見学に出かけている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や体操、レクリエーションを一緒にしたり、孤立したりトラブルがない様子に見守りながら支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了された方やそのご家族から相談があれば支援行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動に耳を傾けて、意向の把握に努めている。又、ご家族にご協力お願いして外出支援を行っている。	センター方式のアセスメントシートを活用し、把握した入居者の思いや意向を職員間で共有している。担当職員は居室の整備などに関わりながら、夜間のみ腰痛を訴える入居者の思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や面会にみえた方から入居前の情報収集を行い、不安なく生活して頂く様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態の様子観察を行い、記録に残し、申し送り等で、情報共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を実施し、担当より状態報告行ったり、ご本人、ご家族、かかりつけ医、担当の意見や意向を聞き、プランに反映させている。	担当職員が実施したモニタリング結果に基づき、担当者会議で計画を見直している。転倒を繰り返し自力歩行ができなくなった入居者の被害妄想や死にたいとの言葉をそのまま受け入れ、心地よい環境づくりに努めている。	毎月実施されているモニタリング結果を担当職員と介護計画作成担当者等で分析し、入居者の反応や可能性、新たな課題などのサービスの評価や再アセスメントにつなげるモニタリング実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人の健康状態、排泄、食事、その日の様子等を個別に記録し、情報共有を行っている。気づきや問題点は、申し送りやケア会議で話し合い、プランを見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の要望を伺い対応に努めている。例えば施設内で月1回カットサービスが行われているが、数名のご利用者は、行きつけの美容室へ送迎し、整容行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内の保育園や文化連盟、民生委員の慰問等、交流の機会を持ち、歌や踊りの他に会話をして頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際かかりつけ医を決めて頂いている。定期的を受診し健康管理を行っているが、異常時にはかかりつけ医とご家族と連絡を取り、専門医への受診をして頂いている。	かかりつけ医が法人理事長でホームに看護職員も就労しているため、適切な医療受診が円滑に実施されている。先日も腰や膝の痛みを訴える入居者があり、かかりつけ医の紹介状を持参して専門医療機関を受診している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時には看護職員へ報告、相談し指示を受け、看護職員で判断出来ない時は、かかりつけ医に連絡、報告し、指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、管理者又は施設職員が付き添い状態報告を行っている。入院中は定期的に病院に伺ったり医療連携室担当者と連絡を取り合い、情報の交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態や年齢に応じ、ご家族に、病状悪化時、終末期について意向を伺っている。施設内で出来る介護について説明し、医療が必要な場合は、かかりつけ医に相談し、面談をして頂いている。又は、他施設の紹介を行っている。	前年度2人目の看取りをしている。点滴などはしたくないとのご本人の希望を全職員が自然に受け入れ、穏やかに最後を迎えられた。現在3名の入居者がホームでの看取りを希望されているが、医療的ケアが行えないことを本人や家族に了解していただきながら、今後も看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは作成されている。定期的な訓練までには至っていないが、嘔吐の処理方の実践や、園内勉強会に参加しAEDの使い方を学んだり、応急救護の研修に参加している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関しては、年2回の火災避難訓練(日勤帯・夜勤帯)を、消防署立ち合いで行っている。又、地震、水害時は、災害時マニュアルを作り、母体と協力体制を作っている。	年2回消防署の指導で避難訓練を実施し、毎月地元消防団による定期巡回もある。近隣居住の方々に緊急時の協力依頼のチラシ配布予定である。備品台帳を整備し、レトルト米や飲料水、缶詰などを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者にあった時間を過ごして頂いている。レクリエーション、行事等強制せずに、意向を尋ねている。言葉遣いも気をつけて対応している。	入居者の心身の状況、生活歴、性格等を配慮した声かけや対応に努めている。行動が少なく、自発語のない入居者には、耳元でゆっくりと話しかけて顔の表情を確認しながら対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらで決めつけず、強制等もできるだけせずに、意向を尋ねて、自己決定を尊重する様に心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	過ごしたい場所や、やりたい事等、ご利用者の意向を尊重して支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月施設内でカットサービスの支援行っている。又、数名のご利用者は、行きつけの美容室に行かれてあり、ご自分で出来ない方には、職員が整容の支援行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器拭き等手伝って頂いている。誕生日には、ご本人の好みの献立にする等心掛けている。	入居者のいただきますの声かけで、職員も同じ食事を同じテーブルで摂っている。入居者の心身の状況に応じた声かけをしているが、傾眠傾向の入居者に再三声をかけて開眼を確認しながら、食事介助が行われていた。職員から「お願いします」との声かけで、食後にお皿やお膳を丁寧に拭く入居者もあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分確保有無や量は個人記録に記入している。献立は食事担当がたて、お粥や刻み食等その方にあった形態で摂取して頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方には、口腔ケアの声掛けを行い、支援必要な方には義歯洗浄や口腔内ケアを行っている。又、定期的に義歯預り洗浄液に漬ける事も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、失禁されない様に声掛けも行っている。又、夜間もPTイレを使用して頂き、トイレでの排泄支援を行い、排泄状態により、紙パンツと布パンツの使い分けを行い軽減に努めている。	日中はトイレでの排泄を支援しているが、夜間のみポータブルトイレを使用している入居者もいる。適切な排泄支援が、入居者の心身状態の改善につながることを理解し、排泄リズムや仕草などのサインでトイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を作成し表に記入しながらチェックし、必要に応じて下剤服用してもらったり、腹部マッサージ等を行っている。又、毎日牛乳を提供し、体操や棟内歩行をする等運動を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の希望やタイミングでの入浴実施には至っておらず、曜日を決めて入浴して頂いているが、無理、強制はせず、ご本人の意思を尊重した支援を行っている。但し便汚染等生じた場合はその限りではなく、随時入浴はできる。	週2回の入浴を支援している。寒いとか風邪をひいて具合が悪いと入浴を拒否する入居者が、調査当日は職員の丁寧な再三の声かけで、浴室に移動していた。一旦浴槽につかるとなかなか出てくれないと、管理者は笑顔で話している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し、居室、ホールソファにおいて休んで頂いているが、その時の状況に応じて職員が移動させ休んで頂く事もある。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の説明書のファイルを作り、いつでも、誰でも閲覧出来る様に、事務所に置いている。又、薬の変更や追加等は申し送りノートに記入し、確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや、たたみ、お盆やお茶碗拭き、野菜の皮むき等、過去にされていた事柄を継続して頂き張り合いに繋げている。又、ご本人の意向に応じ、塗り絵や計算学習等されて過ごされている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿った外出は出来ていないが、天気の良い日にドライブしたり、地域の祭りに出掛けている。又かかりつけの美容室に行かれたり、ご家族のご協力でご自宅まで帰られる事もある。	地域の祭りが開催され、初詣の社もある地域名所の沿道は入居者の車イスを職員が抱えるほどの段差があるため、運営推進会議で段差解消を提案したところ、今年の初詣の折は段差が解消され、一層安全な外出ができるようになったと管理者は喜んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前や契約時に、金銭の預りはしていない事を説明しているが、ご本人希望で欲しい物があれば、ご家族に連絡をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話をおかけし会話して頂いている。手紙のやり取りはされていないが、年賀状を出された方はいらっしゃる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用箇所は、広く、明るい空間に心掛け、毎日掃除を行っている。施設内はどの箇所もエアコン設置し温度調整しながら過ごして頂いている。又、花を飾ったり、毎月交代で壁面装飾をし、季節感を出す事に心掛けている。	玄関正面にはお雛様と手作りのお地藏さんが出迎えてくれる。各ユニットの居間はエアコンと加湿器で温度調節されている。壁には入居者のぬり絵が飾られている。廊下の壁には造花や寄贈された作品が展示されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内ソファで過ごされたり、テーブルの椅子に座り、ご利用者同士会話されたり、テレビを見られたりして過ごされている。ホール横はテラスもあり、天気の良い日は外気浴をされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族が持ち込まれた物を置いたり、誕生カードを貼ったりして居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室間違いを防ぐために、入口に入居者名や造花を掲示した居室もある。ホーム備え付けのベットもあるが、ベット柵がない持ち込みのベットは職員が工夫して柵を取り付けている。テレビや冷蔵庫を持ち込んだり、自作の塗り絵や写真を飾っている。心身の状況に応じてポータブルトイレやセンサーマットを設置している居室もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場には手摺りを設置したり、トイレやベッド横には支援バーを設置し、夜間はPトイレを使用して頂く等、自立した生活が送れる様に工夫している。		